



写真3 (左)、4 (右) 笠松町無動寺トンボ池のオニバス群落。1988.9.15

大正時代には木曾川の本流であったと言われるトンボ池は、堤防に並行した幅50m、長さ200mの細長い池で、周囲にはヨシ・ガマ・サンカクイなど抽水植物が繁茂している。池の東側(水深2m以上)にはクロモ・コカナ

ダモ・ホザキノフサモ・キクモなど沈水植物が生育し、オニバスは池の西側半分(水深1m以下)に100株以上の生育が見られ、葉径は1mを越すものもあり、見事なオニバス群落であった。

山口県にもチクゴスズメノヒエ

南 敦

キシウスズメノヒエの山口県での一番最初の記録は、岡国夫ほか編(1972)『山口県植物誌』によれば「下関市松屋 K. Murata 1938.8.18」である。その後山口県では各地に見い出されている。筆者の勤務校がある柳井市でも黒杭ダムに多い。昨年、勤務校の山口県立柳井高等学校の西側水路で水面をはうように広がっているのを見つけた。それらは異様といえるほどよく繁殖していた。証拠標本はキシウスズメノヒエとして山口県立山口博物館や宇部短期大学等に納めていた。昨日1989年2月25日、水草研究会報No.33,34(1988年12月)で「岐阜県にもチクゴスズメノヒエ」の記事を見て、早速前記水路をのぞいて見た。暖冬のため枯れないで残った落葉や今年のびた新葉があった。採集標本は完全ではなかったが、記事の通りチクゴスズメノヒエであった。全体大形で葉身表面に細毛を密生していた。葉鞘の方もよく見れば確かに細毛を密生していた。

○新潟県植物分布図集 第1集～第9集(1980—1988)
(監修 池上義信 編集 石沢進)
新潟県植物同好じねんじょ会による新潟県内の植物分

布図集です。各植物について水平分布図(二色刷り)と垂直分布図(第1集以外)が掲載され、基にした標本の採集地、標高、採集者、採集年が詳しく記載されています。約50年前からの標本、50万点以上が活用されています。分布図は各担当者が責任をもって、手作業で打点されており、他の分布図集よりも精度の高いものとなっています。巻末には「分布資料」として、新潟県の植物分布に関する最新知見が載せられており、また特に研究の進んだ種については論文の形でまとめられています。その他にも随所に「雑録」として植物分布に関する話題が挿入されており、本分布図集は新潟県の植物を知るためには必要不可欠です。第1集に50種、それ以後第8集までは各100種、第9集に125種が掲載されており、本年末に出版予定の第10集で計1000種の分布図がまとめられる予定です。先般出版された第9集には、オニバス、ヒシモドキなどの分布図の他、ミズドクサ群落や朝日池の植物など、水生植物に関する記事もいくつか掲載されています。

A4判、約500頁(写真約24頁)、第3、4集 5,500円、第5～9集 6,000円(第1、2集は品切れ)。照会先 コーエイ印刷株式会社まで。

〒950 新潟市弁天通1-31-30 Ⅲ 025-286-2011
振替口座 新潟1-5599 (笹川通博)